

# 図書館だより 6月号

令和4年6月28日  
万代高校図書館

皆さん、体育祭お疲れ様でした。青空の下で、いきいきと競技や応援に打ち込む皆さんの姿を、今年も近くで見ることができ、嬉しかったです。借り人競走で借りられていく先生方を見て、「いいなあ」と思っていたことはナイショです。

さて、いよいよ夏がやってきますね。大人になっても、夏はなぜか特別な季節に感じられます。一度しかない今年の夏を、皆さんはどう過ごしますか。

最近、私は何度か映画館に行きました。『シン・ウルトラマン』を2回、『トップガン マーヴェリック』を2回観ました。大迫力の映像と音楽に浸りきって、大満足でした。

時を忘れて物語に入り込む体験は楽しいもので、その点においては、もちろん「読書」も引けをとりません。心に描く想像の世界は、スクリーンの大きさに果てはありませんし、物語のページを自分の手で進めていくというドキドキワクワクもあります。夏こそ読書！（←どの季節にも言ってますね）良い時間を過ごせるよう、いつでもお手伝いします。

図書館司書 楠

上限 10 冊まで OK !!

返却は夏休み明け



特別貸出、始めます♪

7/11(月)~8/12(金)

返却は夏休み明けの8月26日(金)まで

夏休みに読む本の特別貸出期間です。この機会に、読みたかった本をまとめて借りてみませんか？

期間中、何度でも返却・貸出ができます。読んでしまったものだけを返して、また別の本を借りることもできますので、ぜひ利用してください。

## 千の扉あけて 第13章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『華氏451度』

レイ・ブラッドベリ 著  
伊藤 典夫 訳  
筑摩書房

933  
ブ



本を読むこと、所持することが禁じられた未来社会を描いた SF 小説です。「なんと恐ろしい！」と私などは思いますが、もしかすると「何が困るの？別にいいじゃん」という人が、意外に増えているのではないかと、別の意味で恐怖を感じています。

近未来、人々は壁一面のディスプレイに映る映像を娯楽として見続ける毎日。そんな社会でも、本を愛し、隠れて本と共に暮らしている人たちがいます。主人公モンターグは、本を隠し持っている人たちを見つけ、その本を燃やすことを仕事としている「昇火士」のひとりです。自分の仕事は正しいことと信じ、本が燃

える炎を美しいと感じるモンターグ。しかし、風変わりな少女クラリスとの出会いや、命に代えても惜しくないほど本を愛する人たちの存在が、彼の人生を大きく変えていきます。「心の自由」を否定される世界で、本と物語を守るには…？

70年ほど前に書かれた、SFの古典ともいえる作品です。液晶TVやワイヤレスイヤホンのようなデバイスが登場するなど、現在の私たちの暮らしを予見したかのような描写に驚かされます。現実世界の日本でも「日々、書店が町から消えていく」との報道がされていて、私は残念で悔しくて悲しくてたまらないのですが、何も感じない人もたくさんいるようです。「本が読める世界で良かった」と思える人に、ぜひ読んで欲しい一冊です。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



## PICK UP! 料理の本

暑い夏の到来です！  
おいしいごはんを栄養をとって、元気に乗り切りましょう！  
読んだら作ってみたいくなる、レシピ本の紹介です。



### 「カレンの台所」

滝沢カレン 著 サンクチュアリ出版



料理の本で、こんなに笑ったのは初めてです。著者はバラエティ番組で人気のタレント、滝沢カレンさん。知る人ぞ知る料理の名人である彼女ですが、言語センスが独特すぎて…。

「何をしてるんですか？今日の台所は、私の右手にかかれば小さな自慢にもしたいハンバーグです。昔の掛け軸に出てきそうな山に見えてますのがハンバーグです。」

などなど、うっかり外で読んだら吹き出してしまうので、貸出をして自宅で読むことを強くおすすめします！

### 「志麻さんの何度でも食べたい極上レシピ」

志麻 著 マガジンハウス



こちらバラエティ番組でおなじみ、カリスマ家政婦の志麻さんによる料理本です。レシピは「プロヴァンス風焼きトマト」「鶏ソテーの猟師風」など、名前だけで美味しそうなフランスの家庭料理がメイン。なかなか日本の食卓には上らないオシャレなものばかり。写真がとにかくおいしそうで、チャレンジしてみたいくなります。こんな料理がレパートリーに加わったら、ちょっと自慢できそうですね。